

# IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2006年4月号

## 電子投稿・電子査読システム運用に伴う論文委員会の役割の見直しについて



編修長 深尾 正



編修長補佐 竹下隆晴

関係各位の大変な努力によって、本年の1月から電子投稿・電子査読システムの本格運用が開始されました。これによって査読期間の短縮と投稿者の方への査読経過情報の提供などのきめ細かなサービスが可能になりました。従来どおり書面で投稿いただいた論文についても、電子査読システムで査読できるように、投稿者のご了解を得て論文委員会で代理登録をいたしますが、ぜひ、電子投稿をお願いいたします。

電子査読への移行によって、今まで査読者の決定、査読報告文の審議などが主な仕事であった論文委員会の役割を、論文誌をよりよくするための審議ができる場に変えていく必要があります。論文委員会の構成も含めて見直さなければならぬと思います。

これから論文委員会で検討し、実現しなければならない事柄には以下のような項目があると考えています。

1. 電子投稿・査読に伴う諸問題に対する対応 実際には運用していく過程で問題点が明らかになると思われま。投稿者にとっても査読者にとっても利用しやすいシステムに完成させる必要があります。
2. 投稿マニュアル・査読マニュアルの作成 既に昨年7月のニュースレターでも述べましたとおり、査読の不公平感・不満の解消と査読期間の短縮のためには、投稿者と査読者が学会誌の論文に対して共通の認識を持っていただく必要があると考えます。査読の基本ルールを明確にして、査読委員の方々には、それを守っていただかなければなりません。また、論文として完成度の低い投稿原稿に対して、長期間にわたって投稿者と査読者の間でやり取りが行われるのは、査読期間の長期化とともに、査読者にとっては極めて大きな負担であり、他の論文の査

読の遅れにもつながります。創意、新規性、有用性を証明する必要にして十分な証拠が揃っていない論文は、早い段階でいったん返送にして、完成度を高めた上で再投稿していただくべきと考えます。

マニュアルの案を既にWGで検討しています。

3. 技術委員会と論文委員会の連携強化のための組織とルール作り 平成18年度の事業計画の大きな目標である、研究会論文を論文誌に投稿していただくための組織とルールを作る必要があります。プランは提案されましたが、具体的なDoの段階にはなっていません。他の検討項目すべてに言えることですがPDCAのループが回るような評価基準やルールを作る必要があります。
4. 英文論文誌への対応 編修担当ならびに共通英文誌編修委員会との役割分担、論文処理の手続きなどを明確にして、英文論文誌に対する論文委員会の責任分担をはっきりさせなければなりません。
5. ゲストエディタの役割、権限に関するルールの明確化 特集論文を担当していただくゲストエディタの役割や権限を明確にするルール作りをしていきます。
6. ニュースレターやホームページへ「論文委員会だより」を掲載 論文委員会の活動を会員の皆様方に知っていただくために、できるところからはじめます。

国際的に成果を発表することは極めて重要ですが、同時に、母国語でレベルの高い論文誌を発行できるということは大いに誇るべきことで、わが国の産業の発展のために必要不可欠です。有用な解りやすい論文誌を作るために、今後とも会員の皆様方のご協力をお願いいたします。